

2026年2月25日

NANOホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長CEO 松村 淳
(4571 東証グロース)
問合せ先 IR 担当 土屋 千映子
電話番号 03-6432-0020
URL <https://www.nano-hd.com>

国際会議 Tides Asia 2026 における当社 RNA 医薬の開発進捗報告について

2026年2月25日に開催された国際会議「Tides Asia 2026」において、代表取締役 CTO の秋永士朗が、当社が開発を進める TUG1 ASO（再発膠芽腫）および RUNX1 mRNA（変形性膝関節症）の開発進捗について発表しましたので、その概要をご報告いたします。

【発表概要】

■ TUG1 ASO（再発膠芽腫）

TUG1 ASO は、膠芽腫細胞の生存に関わる「TUG1」を標的としたアンチセンスオリゴ核酸医薬で、当社独自の YBC ポリマー技術により静脈内点滴投与で脳腫瘍へ薬剤を届ける設計です。再発膠芽腫は治療選択肢が極めて限られ、新規治療薬の開発が急務とされる中、本剤は新たな治療アプローチとして期待されています。全試験結果は 2026 年度の国際学会（AACR：米国がん学会）で Late breaking Abstract として報告予定です。

<中間結果報告概要>

安全性と有効性の兆しを確認

- ・投与した 13 例の約半数で腫瘍の成長抑制を確認。
- ・通常 2 か月程度とされる無増悪生存期間（PFS）が 1 例で 10 か月に達し、腫瘍縮小の可能性を示唆。

■ RUNX1 mRNA（変形性膝関節症）

RUNX1 mRNA は、膝軟骨の再生を目指す新しい mRNA 医薬で、DDS 技術により関節内に留まりやすい設計です。本剤は mRNA を用いた新たなモダリティとして、損傷軟骨そのものを再生する根本的治療となることが期待されています。現在、オーストラリアで第 1 相臨床試験の患者スクリーニングを継続しております。対象患者層は十分に確保されており、2026 年中の Proof of Mechanism（体内での作用メカニズム確認）取得を目指し開発を進めています。

なお、4 月以降は、これらパイプラインは新設子会社である NANO MRNA に移管され、同社の事業として開発を進めてまいります。NANO MRNA では、治療法が確立されていない疾患に対し、新たな選択肢となり得る RNA 医薬の可能性を独自の Platform 技術を用いて追求し、研究開発および導出を加速してまいります。

以上